

平成26年度県立広島大学教育改革フォーラム
大学教育再生加速プログラム
Acceleration Program
for University Education Rebuilding : AP

県大型アクティブ・ラーニングの
導入による教育改革
(平成26—29年度)

平成27年3月7日
AP事業推進部会部会長
学長補佐（教育改革・大学連携担当）
西本 寮子

1

本日の報告の流れ

- 教育改革の必要性
- 本学の教育改革
- 「大学教育再生加速プログラム」取組の概要
- 平成27年度からの学士課程教育とアクティブ・ラーニング
- 本日のプログラム

2

大学等名：県立広島大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）

取組概要 地域活動を組み込み、主として教室外で行う「行動型学修」と、学修者の知的能動性を揺り動かす深い学びを喚起する「参加型学修」を組み合わせた「能動的学修」を学士課程教育に計画的に導入して教育改革を進める全学的な取組である。これにより、幅広い教養と高度な専門性を備えた人材を育成し、生涯にわたり学び続ける自律的な学修者アクティブ・ラーナーの育成を目指す。

県立広島大学型 アクティブ・ラーニング Campus Linkage Active Learning [CLAL]

行動型学修 教室外

学生の主体性を育む能動的学修

参加型学修 教室内

教室外での学びを取り入れる

- ・学生間交流 → 各キャンパスに拠点を置いた地域活動
- ・地域との交流
- ・異文化交流



フィールドワーク
現場体験
インターンシップ
学修成果発表会

知的能動性を揺り動かす

- ・協働学修
- ・反転授業 → 学修意欲・自主性を引き出す学びのスタイル
- ・プロジェクト学修
- ・双方向授業



振り返り
プレゼンテーション
ディスカッション・ディベート
授業公開促進

学修支援

- ◇ 学修環境の整備 行動型学修実践支援
- ◇ 支え合いをリードする学生の育成 学修アドバイザー育成
- ◇ 教職員研修の充実 ファカルティ・ディベロッパー養成



教育改革のSTEP

教学マネジメント

体系的な学士課程教育プログラム

教育方法の見直しと充実
授業方法の転換・改善

自己評価システム

生涯学び続ける自律的な学修者
【アクティブ・ラーナー】

	25年度	29年度
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合*	100%	100%
ファカルティ・ディベロッパー養成	0人	30人
学修アドバイザー育成	0人	55人

* 29年度の数値目標はアクティブ・ラーニングを再定義した上での値である

学長のリーダーシップの下、教育改革に取り組む。本学での学びに対する学生の満足度を高め、卒業生の活躍により地域への波及効果を狙う。

- ・教室外での学びを取り入れ、学修意欲・自主性を引き出す新たな教授法による授業外学修の充実を加速する。
- ・知識を活かせる人材の育成を目指して、真の問題発見力や課題解決力、論理的思考力を育む。
- ・FD・SD活動の充実により、教職員の意欲を向上させる。目標を共有し、教育の質的改善に全学的・組織的に継続して取り組む。
- ・学生同士が教え合うことで、学びを定着させる。

3

なぜ教育改革か(1) 教育の質的転換が求められる背景

■二人に一人が大学を卒業して社会に出る時代

■本格的に進む少子高齢化により社会は複雑化し、将来の予測がますます困難な時代

■大学教育に対する期待

- ・変化に対応できる**人材の育成**
- ・未来を担う**学術研究**
- ・社会貢献・地域貢献

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(平成24年度答申)は、

大学教育の**質的転換**を求め、基盤としての**研究力の向上**に言及

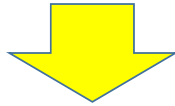
高い研究力を基盤とした確かな教育力が教育改革の鍵

大学教育の役割の変化 質的転換が求められる背景

■学士課程教育に求められる役割の変化

(平成20年度答申「学士課程教育の構築に向けて」以後)

多くの単位を修得し**知識の量**を増やすこと 【履修主義】



「答申」(24年度)に記される、高等教育で培うべき「学士力」の要素

認知的能力／倫理的・社会的能力／
創造力と構想力／教養・知識・経験

【学修者中心の考え方】

生きていく上で必要とされるコンピテンシーを修得すること

予測困難な時代を生き抜くために必要な主体的学修・姿勢を身につけること

5

なぜ教育改革か(2) 主体的学修が求められる理由

■学修者に求められる能力

想定外の事態に遭遇したときに、そこに存在する問題を発見し、それを解決するための道筋を見定める力

→知識だけでは解決できない

→**主体的**に問題を発見し、解を見いだす力が必要

できるようになる

■育成すべき人材

生涯にわたって学び続け、主体的に考える力を持った人材

→「認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、**主体的**に問題を発見し、解を見いだす」力を身につけることが求められている

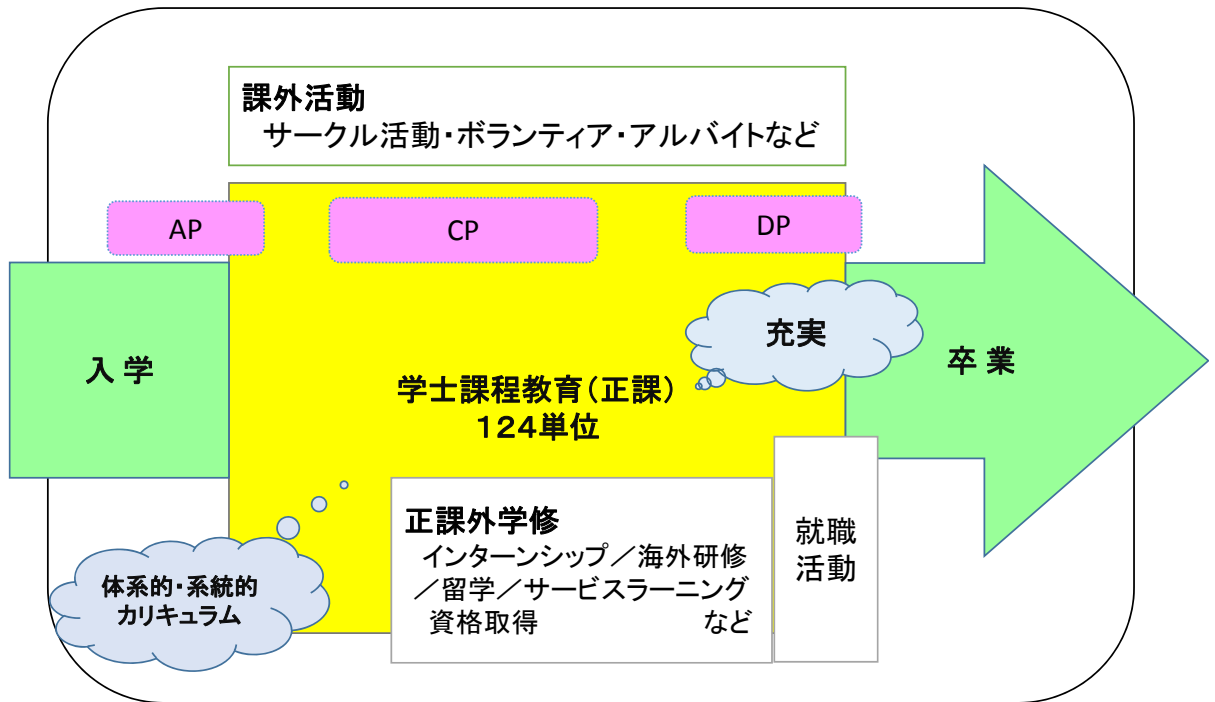
知識の伝達・注入を中心とした授業からの脱皮と
能動的学修への転換が必要

できるようにする



6

学生は忙しい...けれども



7

本学の学士課程教育、質的転換への方策

- 「授業の満足度は高いが、授業外学修時間が伸びず、主体的学びが引き出せていない」という課題認識



課題の克服には**教育内容**と**教育方法**の工夫が不可欠



【教育内容】の見直し → カリキュラム改革に着手

学士課程教育を【教育プログラム】と捉えて充実させること
→27年度から新たな**共通教育**がスタート
専門教育も変わる

8

■ 継続的に行われてきたFDの成果を踏まえて

- ・学内FD研修会・講演会等の継続的、定期的な開催
- ・学部・学科単位でのFD事業の支援
- ・学外FD・SD、研修会等の情報提供、参加促進
- ・シラバス・コースカタログの改善
- ・授業評価アンケート改善に向けた継続的な取組とアンケート結果の活用と公表 など

総合教育センターを中心とする取組は着実に成果を上げてきた

教育改善、改革についての継続的な取組による意識向上

さらに加速

大学教育再生加速プログラムへの申請・採択につながった

9

「学習」から「学修」へ

【教育方法】の工夫と見直し

- ・対話を重視した双方向授業、能動的学修を引き出す仕組みと仕掛けが必要

「大学設置基準」では、「週」、「学修」と記載

- ・「習う」と「修める」の違い
- ・高まる自主的、能動的な学修を促す教育の必要性

能動的学修を促すために有効な**アクティブ・ラーニング**

進行中の教育改革にあわせてAP申請

基盤としての実績が自信に

すべての学部が現代GP・教育GPに採択され、地域をフィールドとする教育に実績をもつ

実績を踏まえ、新たな取組を加えて教育改革を着実に推進

大学教育再生加速プログラムの取組は平成29年度まで、教育改革完了は30年度

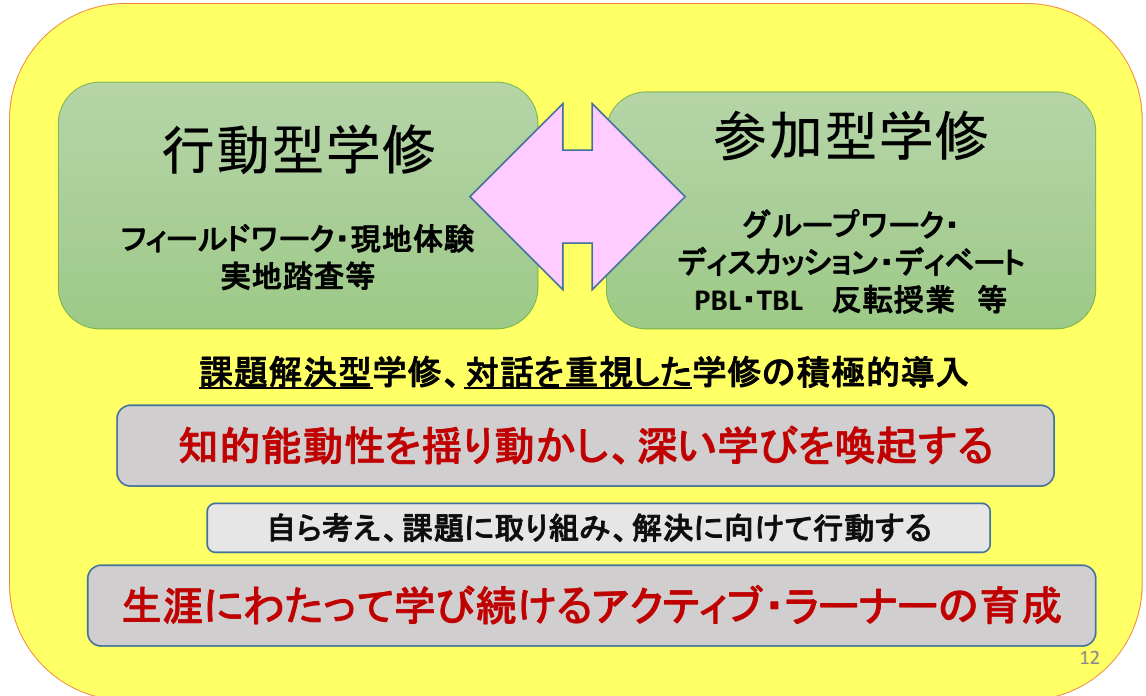
10

全県域をフィールドとする県立広島大学の特色を活かした教育の実践

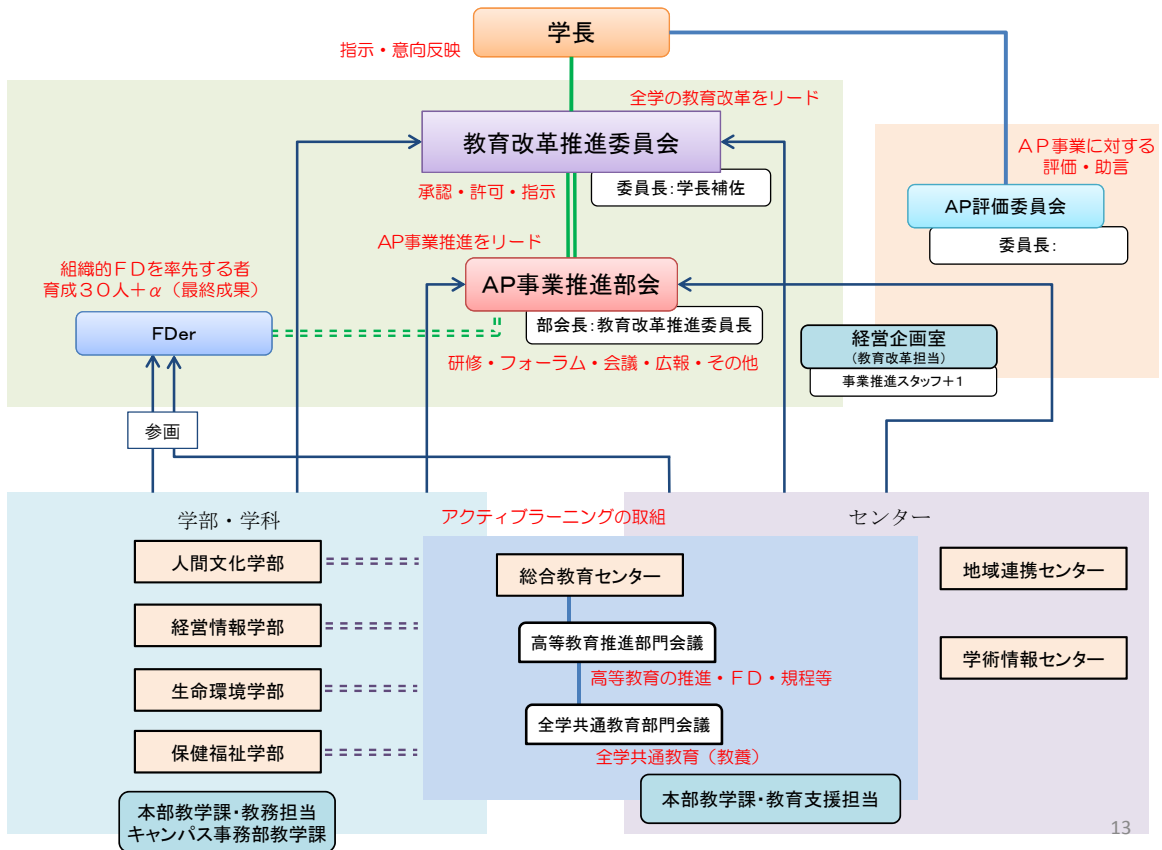


県大型アクティブ・ラーニングの特徴

ALの定義...学生の主体的学びを育む能動的学修



AP事業推進体制図（案）



採択後の取組の一例

■事業推進体制の整備

■AL事業推進部会員を中心として積極的に研修、フォーラム参加、情報交換、情報収集

■教職員専用 wiki を利用して情報提供 ← 隔週更新

- ・各種セミナー、研修会の案内、参加支援

←参加者の旅費等必要経費負担

- ・セミナー等参加報告・資料一覧 ←いつでも閲覧可能、個別説明可能
- ・参考図書一覧 ←いつでも閲覧、貸し出し可能

■アクティブ・ラーニング導入状況調査の実施

■行動型学修を支援する体制整備

→27年度前期授業の学生移動経費申請締切は3月末日

締切間近

■取り組み事例について、学会等で報告

★27年度からの本格的な取組に向けて事業推進体制を強化

→教育改革におけるFDの重要性

総合教育センターと連携して、FD研修をさらに充実

アクティブ・ラーニング

導入状況調査(平成26年12月ー平成27年1月実施)から

(1)対象は非常勤講師を含む、授業を担当する教員

回答数は175名、435科目(調査対象科目数 775科目) →科目回答率 56%

(2)「26年度にアクティブ・ラーニング導入」と回答があったのは**291科 66.9%**

→申請時は **88%** (25年度授業評価アンケートのコメント等から抽出)と記載

対象としたALは、**ディスカッション・ディベート・グループワーク・フィールドワーク・TBL・PBL**・出席カード等の使用

→今回の調査では「出席カード等の使用」は除いた

→到達目標 ALを導入した授業を受講する学生 **100%**

ALを導入した授業の割合 **60%**

(3)「導入しているAL」は**グループワーク**が最も多い203科目、以下プレゼンテーション・ディスカッション、PBL・TBLと続く。

* PBL ...Problem Based Learning TBL ...Team Based Learning

15

(4)「導入している」回答者のうち**60%**が「効果的」「成果があった」と回答。

(5)「27年度に導入する予定」という回答 **60%**以上。

(6)「導入していない」理由はさまざま。「**学修効果が感じられない(9.9%)**」「**やり方がわからない(7.5%)**」との回答あり。



調査結果は、AP事業推進部会委員を通じて各学科に提供

16

今後の取組の方向性

支え合い、学び合う仕組みを構築

- ・個々の授業改善、意識の醸成は進んでいる
 - ・アクティブ・ラーニングの質の向上、実質化が課題
- 教育効果、学修成果を考えながら、計画的に導入
→学部・学科、あるいは領域単位で取り組むことで、教育力のさらなる向上をめざす

Fder(ファカルティ・ディベロッパー)の育成
目標 各学科2名以上
全学で30名

学修環境の整備
ラーニングcommonsなど

学修支援学生の育成
TA/SA/アドバイザー など

学修支援制度の充実
キャンパス移動補助など

引き出しは多い方がいい

基本に戻り、新たに学ぶ姿勢

情報提供・共有方法の充実

学外研修参加支援・促進

小規模研修の実施
目的別・学科or部局別

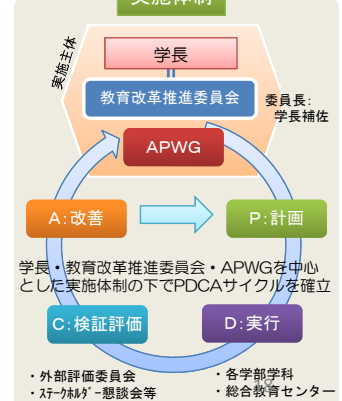
生涯学び続ける自律的な学修者【アクティブ・ラーナー】の育成

成果

【全学人材育成目標の実現】

- 高い志とたゆまぬ向上心
- 課題解決に向けて行動する実践力
- 豊かなコミュニケーション能力
- 主体的に考える
- 幅広い教養と高い専門性
- 学長のリーダーシップ発揮・ガバナンス確立
- 教員の意欲向上・目的意識の共有

実施体制



自己評価システム

学生が自らの学びを評価するシステム (ポートフォリオ)

- △ サポート&可視化
- ▽ 振り返り

学生の主体性を育む能動的学修

< 授業方法の見直し・改善, 教育方法の充実・転換 >

行動型学修

教室外での学びを取り入れる

- ・現代GP・教育GPの継承と発展
- ・学生間交流
- ・地域との交流
- ・異文化交流

→ 各キャンパスに拠点を置いた地域活動

参加型学修

知的能動性を喚起する

- ・協働学修
- ・プロジェクト学修
- ・反転授業
- ・双方向授業

→ 学修意欲・自主性を引き出す学びのスタイル

学修支援

・学修環境 ・支え合いをリードする学生 ・教職員研修

- △ 自ら学ぶ
- ▽ 振り返り

体系的な学士課程教育プログラム

- ①全学共通教育 ②専門教育 ③領域横断・学部横断型プログラム

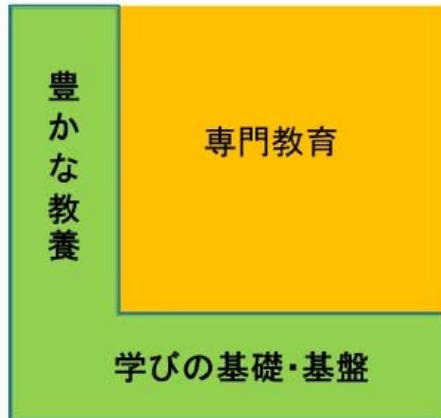
教学マネジメント

学長・学長補佐 (教育改革・大学連携担当) ・教育改革推進委員会 ・APWG

県立広島大学 (PUH) 全学人材育成目標

アクティブ・ラーニングの取組
 Campus-Linkage Active Learning
 県立広島大学型アクティブ・ラーニングの前提

平成27年度入学生から始まる L字型教育



大学生としての「学びの基礎・基盤」を固め、「豊かな教養」を、4年間を通じて身につける

「**地域の理解**」 25年度から先行実施
 (遠隔講義+フィールドワーク+合同発表会)
 「**地域情報発信論**」(サテライト科目・単位互換科目)
 26年度から先行実施

教養教育重視の観点から
全学共通教育を再編
 県大スタンダード教育を提供

◇コア・キャリア等の基盤教育科目と
 教養科目をL字型に配置

◇専門教育と併行して4年間で学修

キャンパスの
 距離を越えて

行動型学修
 参加型学修

たとえば、
 フィールドワーク・グループワーク・現場
 体験・合同発表会などを組み合わせて
課題解決型演習を展開

19

平成27年度入学生から始まる L字型教育



たとえば...

健康科学科	地域社会での実践経験を重視
経営情報学部	課題解決型実践科目群を充実
保健福祉学部	学科を越えてチーム医療を意識
生命環境学部	地域を巻き込むフィールド科学
国際文化学科	教育
	授業改善のための授業公開促進

専門教育でも

◇対話を重視した双方向授業をめざし、
徹底的に知的能動性を揺さぶる

・学部学科の特性を重視して、行動型学
 修と参加型学修を計画的に取り入れる

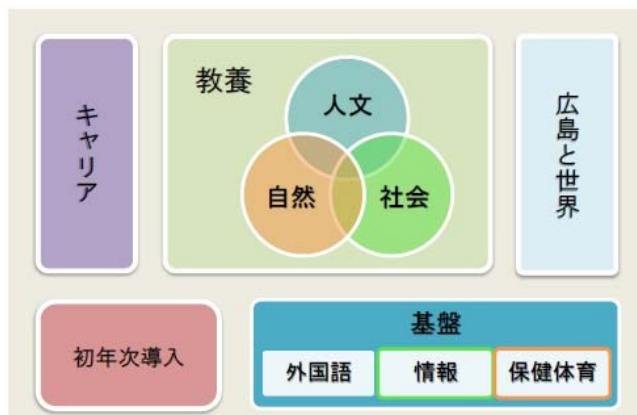
行動型学修、課題
 解決型学修の充実

対話を重視する
 参加型学修

キャンパスを飛び出して地域で活動したり、
 海外研修に参加
 教室の中ではディスカッションや対話を
 重視、コミュニケーション力を磨く

20

平成27年度入学生から始まる L字型教育



体験と対話を重視する 教育への転換を図る

◇学部学科の枠を越えて共通して身につけるべき幅広い視野と実践力を育む

◇学科の特性に応じて設定される自由選択枠を利用して自らの学びを組み立てる

県大型アクティブ・ラーニング

幅広い視野と実践力を育む5つの科目群に再編

自らを相対化する視点を養う「教養ゼミ」の新設

地域での活動や海外研修(行動型学修)

対話を重視する参加型学修

◇キャンパスを飛び出して地域での活動や海外研修に参加

◇教室の中では対話を重視、コミュニケーション力を磨く

本日のプログラムについて

平成26年度の実践事例報告を中心に構成

〈第1部〉

教員と学生による6つの報告

- ・個々の授業における取組
- ・組織的な取組

第2回FD研修会(3月6日実施)での報告事例から本事業の趣旨に沿った取組を紹介

〈第2部〉「広島プレミア科目」の成果

公開ディベート「日本は選挙年齢を18歳に引き下げるべし」

〈総合討論〉

みなさまからの質問をもとに議論を深めます

会場内で
キャンパスリポーター
取材中

HPで学生のさまざまな活動や
学修の成果を発信しています

<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/>